

山浦巖先生を悼む

宮原 豊（9組）

昨年11月、9組の担任だった山浦巖先生が亡くなりました。享年92歳でした。年明けに上原昇君（2組）が地元の仲間から聞き込んだそうですが、関東勢には訃報が届かずそのままになっていました。牧野泉君（9）が確認したところ、告別式には9組の6人が参列してくれたとのことでした。

関東の同級生（一部同期）に連絡したところ、2、3日の間に次のような思い出が寄せられました。地元の増澤賢一君（9）のコメントも添え、故・山浦先生（以下先生）を追悼したいと思います。

- ◆牧野泉・・・先生の逝去については地元の布施修一郎君、若林健君から聞きました。地元の同級生が焼香に行ってくれたとのこと。恩師の永眠に合掌。
- ◆丸山隆平・・・先生には思想とは何かを教えてくださいました。
- ◆保屋野良治・・・10年ほど前、上田で9組の同級会をやりました。先生は出席予定でしたが体調不良で急遽出席取りやめ。これが先生に会える最後のチャンスでした。
- ◆塚田道明・・・淡い記憶の底から先生とクラスで上田城址に桜見物に行ったことが思い出されます。
- ◆竹松（清水）良子・・・コロナが無ければ、先生にお会いできたかもしれないのに残念です。有志がお焼香に行ってください有難いです。ご冥福をお祈りします。
- ◆赤尾晴夫・・・国語の授業中あるいはホームルームの時間中、チョークを片手に持ち、「民主主義とは何か」を熱っぽく語っておられたのを思い出します。本当にご指導ありがとうございました。合掌
- ◆武澤（保屋野）美佐子・・・せっかく担任が国語の先生だったのに、国語は苦手な平均点が取れませんでした。でも叱られたことはありません。ご冥福をお祈りします。

若林健、増澤賢一、柄澤則夫、安藤泰雄、土屋啓郎、塚田修の6名が葬儀に参列されたそうです。増澤君に電話したら、先生にまつわる心温まる思い出の数々を聞きました。懐かしい思い出に笑いながら、こちらまで感涙しました。

- ◆増澤賢一・・・ある厳冬の雪の日に、先生グループと生徒グループでサッカーの試合をやろうと山浦先生が言い出して、雪の降り積もった校庭を走り回ったが、その時にヘディングした先生の眼鏡が割れてしまいました。翌日、先生は透明テープで壊れた眼鏡をかけて教壇に立ったのですが、その痛々しい姿を見て涙が出るほど感動しました。（このエピソードだけを紹介して欲しいとのこと、後は

残念ながらオフレコです)

- ◆西村賢治・ ・「えっ！？西村が現役で大学というところに合格した！？」とゴールデンバット片手に涙を流さんばかりに喜んでくれたガンさんの笑顔を忘れたことはない。ガンさん！ありがとう！安らかに～合掌。
- ◆宮原豊・ ・ ・自分は悪ガキだったけれど、不思議と先生に叱られたり怒られたりした記憶はなく、ある学期の成績が下がった時に、もうちょっと頑張れよ！と度の強い眼鏡の奥の目は笑いながら叱咤されたことを思い出します。本当はいつも叱られていたのに、自分が覚えていないだけなんだろうと思います。哀悼。
- ◆櫻田喜貢穂 (7 組) ・ ・ まともな先生でした。私の個人主義的、自由主義的「幸福論」について批判的に疑問を提起されて、高1の現国の授業が白熱したことを思い出します。

卒業アルバムからの山浦先生



参考：ネット情報ですが、1998年に「わが人生の百首歌、教職に在りし日」が上梓されているそうです。内容は短歌／詩／俳句

著者 山浦巖：1930（昭和5）年上田市生まれ、上田高校（46期）、東京教育大学（現筑波大学）文学部卒、小諸高校、上田高校（昭和32年から昭和46年）、屋代高校、上田東高校勤務、定年後は信濃予備校講師

（2023年1月14日）

以上

